

カンゾウ末 Powdered Glycyrrhiza

生薬のカンゾウの主成分であるグリチルリチン酸は、抗炎症作用や抗アレルギー作用が認められ、幅広く使用されています。第十五改正日本薬局方では、カンゾウ末中のグリチルリチン酸の定量法においてHPLCが使用され、グリチルリチン酸、パラオキシ安息香酸プロピルの順に溶出し2つが完全に分離するODSカラムの使用が指定されています。ここでは、L-column2 ODSを用いて試験を行った結果、上記の条件を満たしており、適合可能なカラムでした。また、第十五改正日本薬局方の条件で抽出した試験溶液の分析でも良好な分離が得られました。

Key words : カンゾウ グリチルリチン酸 第十五改正日本薬局方
Column : USP category: L1

[Analytical conditions]

Column : L-column2 ODS (C18, 5 μ m, 12 nm), 4.6 mm I.D. \times 250 mm L.; Cat. No. 722080
Eluent : CH₃COOH in H₂O (1 in 15) /CH₃CN (3/2)
Flow rate : 0.7 mL/min
Temperature : 20°C
Detection : UV 254 nm
Injection volume : 20 μ L
System : -

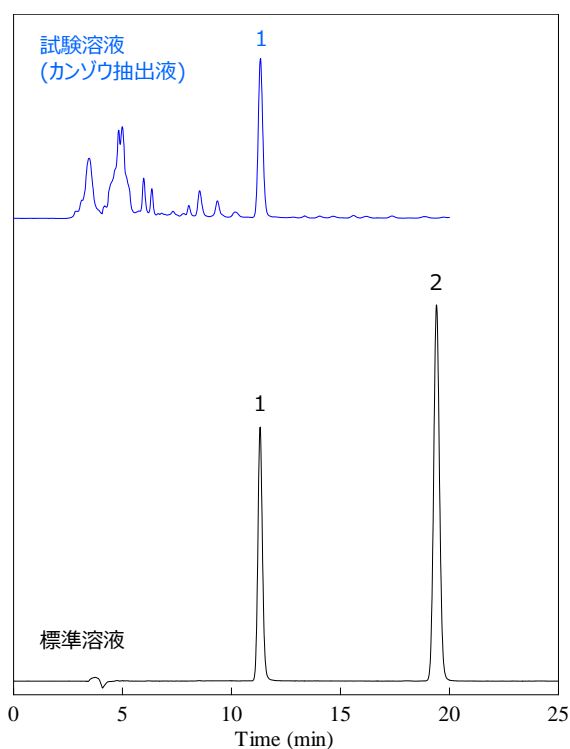
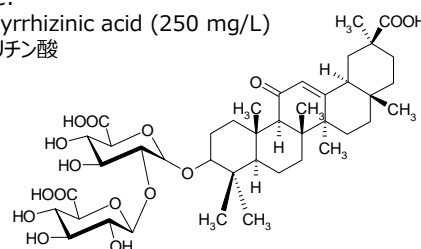


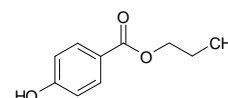
Fig. 定量法 カラムの選定

Sample:

1. Glycyrrhizinic acid (250 mg/L)
グリチルリチン酸



2. Propyl *p*-Hydroxybenzoate (50 mg/L)
パラオキシ安息香酸プロピル



Sample solvent: C₂H₅OH/H₂O (50/50)